ジーベックス
各地のイオンシネマで順次 高精細LEDサイネージ設置

イオンシネマの高精細LEDディスプレー

ショッピングセンターなどで映画館（シネコン）「イオンシネマ」を展開しているイオンは、シネコンの入り口などでの案内用として高精細LEDディスプレーの新規設置を順次進めている。このイオンシネマでの大型LEDなどのデジタルサイネージ（サイネージ）の設置・施工はジーベックスが手掛けている。

イオンシネマ「シネタス調布」（東京都調布市）では、5月に幅2・4㍍×高さ1・7㍍で1・2㍉ピッチの高精細LEDディスプレー（レイヤード製）を導入した。また7月以降、イオンシネマの砺波（富山県）、幕張新都心（千葉県）、越谷レイクタウン（埼玉県）などで順次高精細LEDディスプレー（すべてレイヤード製）の設置を進めていく。

ジーベックスの石川隆一社長は「イオンシネマでは映画館のシアターや宣伝などの案内用に超高精細LEDの導入を加速している。このように映画館ではサイネージによる情報化がさらに進展していくことが期待される。当社は国内映画館の多くの上映システムを手掛けており、シネコンなどの映画上映システムでは国内トップシェアにある」と話す。

最近は映画館のロビー等でのサイネージシステムにも力を入れており、109シネマズプレミアム新宿では、サイネージを含むトータルシステムを構築した。

「今後も映画館関連では上映システムはもちろん、トータルシステムを提案していく」と石川社長は市場拡大に期待を寄せている。

レイヤードジャパンの三浦衛社長は「サイネージシステムとして高精細LEDの需要が拡大している。映画館でもジーベックスなどの支援もあり、当社製品が利用されることが増えた。今後も期待したい市場だ」と述べている。

タッチ式液晶サイネージ
埼玉・JR熊谷駅前で稼働
観光やイベント情報など発信

全国的に連日猛暑日が続いているが、中でも日本一暑い街として知られているのが埼玉県熊谷市だ。その熊谷市ではJR熊谷駅正面口駅前広場に2台の屋外対応液晶ディスプレーによるデジタルサイネージ（サイネージ）を2019年に設置した。熊谷市を訪れる人に向け、情報発信ツールとして稼働している。

熊谷市では、さまざまな映像・音声を使って表現できるサイネージの特徴を生かし、市内の観光・イベント情報をタイムリーに発信。災害が起きたときは、避難情報などを提供する。

熊谷駅前で稼働するタッチパネル式のデジタルサイネージ

分かりやすい操作で案内するタッチ式液晶ディスプレーを採用し、熊谷駅周辺地図をはじめ、熊谷ラグビー場、歓喜院聖天堂といった市内の見どころスポットやバス乗り場などを、タッチ操作で対話的に案内している。

日本語、英語、中国語、ハングルの4言語を切り替えて表示できインバウンドにも対応する。車いす利用者や身長の低い子供でも操作できるようにタッチ範囲を画面の下部に配置するなど、ユニバーサルデザインに配慮したサイネージとして展開中だ。

今夏も〝暑い熊谷〟の情報発信拠点として、駅前のサイネージは重要な役割を果たしている。

「デジタル掛け軸」の模様

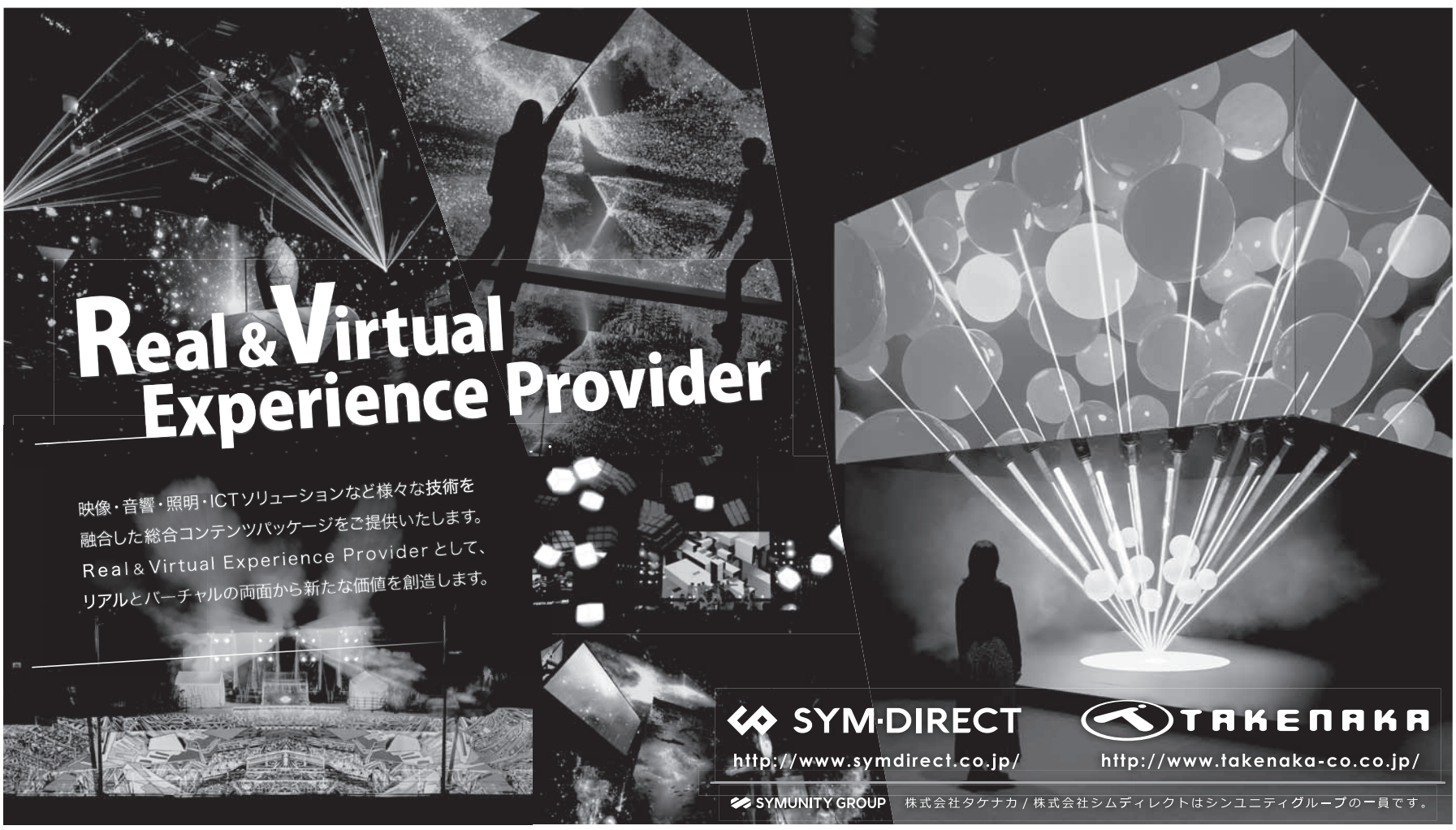
石川県見附島でイベント
「デジタル掛け軸」上映
フォーラムエイトが後援

10月14日―11月26日に石川県で開催される「いしかわ百万石文化祭2023」の応援事業として、「海が見つけた見附島Ⅱ」が、4月16日に石川県珠洲市の見附島前海岸で開催された。主催は、空海が見つけた見附島実行委員会、後援はフォーラムエイト。

イベントのメインは、「デジタル掛軸」と「ドローンショー」。この他、この地域の伝統芸能である「おわら節（富山県）」、「珠洲御神事太鼓（石川県）」、「三国節（福井県）」などのステージがイベントを盛り上げた。

「デジタル掛け軸」は、石川県小松市在住のデジタルアーティストでフォーラムエイトが支援する、最先端表現技術利用推進協会（表技協）会長の長谷川章氏が、世界で唯一独自に展開しているデジタルアートであり、〝時空を超えた芸術〟とされる。

フォーラムエイトではこの「デジタル掛け軸」を全面的にバックアップしており、同社の伊藤裕二社長は「長谷川氏が表技協会長ということもあり、デジタル掛け軸のイベントには全面的に協力している」という。

珠洲市は5月5日に震度6強の大地震にみまわれた。珠洲市のシンボルである見附島も多大な被害を受けた。伊藤氏は「イベント実施の直後だったことでもあり心配した。1日も早い復興を望んでいる」と話していた。

●訂正　7月24日号12面「町田氏はアストロデザインのリアルイメージの記事中、「東京大学発の技術開発型ベンチャー企業」は「大阪公立大学と東京工業大学発の技術開発型ベンチャー企業」に、それぞれ訂正します。